

# 都市再生整備計画

す さ き ち く  
須崎地区

こうち すさきし  
高知県 須崎市

令和2年12月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都道府県名	高知県	市町村名	須崎市	地区名	須崎地区	面積	53 ha
-------	-----	------	-----	-----	------	----	-------

計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度
------	-------------------	------	-------------------

<p><b>目標</b></p> <p>大目標:都市機能誘導による交流や新たな価値を創造する拠点づくり                  目標1:多世代が生涯にわたって学び続けることのできる拠点づくり                  目標2:多世代にわたる交流の場づくりによる地域コミュニティの活性化</p>
---

<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>本市は高知県の中央に位置し、須崎港背後地の中心市街地には、国や県の出先機関が立地しており、文化、産業、経済、物流にわたって高幡圏域の中心地として栄えてきた。しかし、1980年以降より人口減少が続いており、将来人口は2015年の約2.3万人から2040年の1.3万人と43%の減少が予測されている一方、高齢者人口の割合は増加し続け、2040年には48%に達する見込みとなっている。こうした人口減少や高齢化により都市の生活を支える機能(医療・福祉・子育て支援・教育文化・商業)や公共交通の維持が困難になることやインフラの陳腐化による財政負担の増大が予想され、持続可能なコンパクトなまちづくりへの転換が必要となっている。また、南海トラフ地震によるL2クラス(最大クラスの地震・津波)の津波においては市街地のほとんどが津波被災エリアに含まれているため、ハード・ソフト両面からの津波リスクと共存したまちづくり対策を進めていく必要がある。</p> <p>こうした背景を踏まえ、本市では2020年1月に「立地適正化計画」を策定。「持続可能なコンパクトなまちづくり」「誰もが移動しやすいまち」「安全安心なまちづくり」をまちづくりの方向性とし、適切な都市機能を誘導を図り、持続可能なコンパクトなまちづくりを目指していくこととしている。立地適正化計画においては国や県の行政機関等が多く立地している須崎駅周辺地区を「中心核」、土地区画整理事業により整備された新市街地である多ノ郷駅周辺地区を「副次核」と位置づけ、これらの2地区を都市機能誘導区域に設定し、これらの地区と都市計画区域外の拠点集落「生活拠点」(安和、吾桑、上分、野見、浦ノ内、久通)を結ぶ交通ネットワークの維持・強化を図っている。</p> <p>また、公的不動産の活用策として、将来を見据えた適正な公共施設の配置を進めていく必要があることから、区域外に位置する老朽化した図書館を都市機能誘導区域内のスーパー跡地(一部市有地)に移転、複合施設として整備し、都市機能の拡大を抑制し、都市機能の向上に努めることとしており、須崎市公共施設等総合管理計画(平成29年3月策定)では、公共施設等の今後の取り組み目標として、施設の統合・整理や遊休地の活用を図り、複合化などによって住民サービスを維持しつつ、施設保有量の適正化を図るとしている。</p>
---

<p><b>まちづくりの経緯及び現況</b></p> <p>本地区は市街地の中心部に位置しており、行政施設や病院・診療所、銀行・郵便局等の生活サービス施設などの都市機能が集積しているが、近年、人口低密度化や高齢化などによる低未利用地の増加やスーパーが撤退し、生活サービスが低下している。</p> <p>本地区は60年以上前から実施している木曜市や日曜市に加え、移動販売車による買い物市が行われており、地元住民による商いネットワークが構築されているほか、「すさきまちかどギャラリー」が整備されるなど文化活動の動きも見られる。</p> <p>本市および市民らが読書活動を推進しているが、現在の須崎市立図書館は開設50年以上経過しており、老朽化・手狭でといった問題があるほか、蔵書数が約3万5000冊と同規模の自治体に比べ、著しく少ないといった課題がある。(須崎市の人口規模で望ましい蔵書冊数は約96,000冊)</p> <p>平成30年度に市民ワークショップを実施し、それらの声を踏まえて、令和元年度に具体的な計画に向けた方針や建物・敷地といったハード面を整理する「須崎市図書館等複合施設整備に関する基本構想・建設構想を策定、誘導区域内のスーパー跡地に図書館を移転・整備することが決定した。また、市民ワークショップにおいては、図書館のみならず交流機能や地域コミュニティ等の維持に寄与する機能が必要との意見が見受けられたことから、図書館を核とした複合施設を整備することが決定した。</p>
---

<p><b>課題</b></p> <p>本地区は、買い物市の開催や「すさきまちかどギャラリー」の整備など文化活動の動きも見られるが、人口低密度化や高齢化により、低未利用地が多く存在し、スーパーが撤退するなど、まちの活力や生活サービスが低下している。</p> <p>現在の須崎市立図書館について規模が狭く、老朽化が進んでおり、蔵書数は約3万5000冊と同規模の自治体に比べ、著しく少ない現状であり(須崎市の人口規模で望ましい蔵書冊数は約96,000冊)、新たな図書館整備が必要となっている。</p> <p>行政課題に対する取り組みに関する市民アンケート調査では「須崎市の文化・教育に対する取り組み」という項目において、図書館サービスの充実が「満足していない」および「あまり満足していない」との回答が30%以上と最も高く、自由意見においても「もう少し広くしてほしい」「本の取り扱いが少ないので、もっと充実させてほしい」といった要望が見られ、市民からも図書館の整備が求められている。</p> <p>本地区において世代をまたいだ市民の居場所となつている施設・公園が少なく、市民ワークショップにおいても交流機能や地域コミュニティ等の維持に寄与する機能が必要との意見が見受けられた。</p>
---

<p><b>将来ビジョン(中長期)</b></p> <p>【須崎市教育振興基本計画】(平成31年3月)                  ・読書活動を推進しており、読書環境の整備、充実の一環として、市民の意見・思いを踏まえ新たな市立図書館を整備するとしている。</p> <p>【須崎市総合計画】(令和元年12月)                  ・基本計画の項目のひとつに生涯学習、生涯教育の推進を掲げ、老朽化、狭小である図書館の整備を課題とし、対応方針として、新たな市立図書館整備のため市民の意見・思いをふまえた計画づくりを進め、住民が参加しやすい生涯学習の場づくりに努めるとしている。</p> <p>・インフラ整備の一環として立地適正化計画を策定、都市再生整備計画の策定など事業実現に向けた作業を推進するとしている。</p> <p>【須崎市立地適正化計画】(令和2年1月)                  ・立地適正計画のまちづくりの方向性として「持続可能なコンパクトなまちづくり」「誰もが移動しやすいまち」「安全安心なまちづくり」を掲げ、都市機能の誘導を図ることとしている。</p> <p>・須崎駅周辺地区を市街地の「中心核」として、都市機能誘導区域を設定し、都市機能を誘導、都市計画区域外の拠点集落「生活拠点」を結ぶ交通ネットワークを維持・強化する。</p> <p>【第二期須崎まち・ひと・しごと創生総合戦略】(令和2年3月)                  ・「時代に合った地域をつくり、人々の暮らしを守る」を基本目標として掲げ、取り組みの一環として図書館を含む複合施設を新たに整備し、多世代にわたる交流の場として活用を図るとしている。</p>
--

**都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

**都市機能配置の考え方**

- ・須崎駅周辺地区を市街地の「中心核」、多ノ郷駅周辺地区を「副次核」とし、これらの地区の整備を図るとともに、これらの2核を中心に、都市計画区域外の拠点集落「生活拠点」(安和、吾桑、上分、野見、浦ノ内、久通)を結ぶ交通ネットワークを維持・強化する。
- ・都市機能を誘導するため須崎駅周辺地区および多ノ郷駅周辺地区に都市機能誘導区域を設定し、須崎地区において「国・県の分庁舎」「第二次救急医療施設」「文化会館」「図書館・地域交流施設」「スーパーマーケット」「銀行・郵便局等」、多ノ郷駅周辺地区において「第二次救急医療施設」「図書館・地域交流施設」「スーパーマーケット」「銀行・郵便局等」を誘導施設として位置づけ、転出の抑制を図り、機能を維持・確保し、コンパクトなまちづくりを図る。
- ・津波被害による経済的損失の軽減、早期生活再建等を目的として、都市機能誘導区域内のL1津波(発生頻度の高い一定程度の地震・津波)における想定浸水深が2m以上となる区域においては、津波災害に備えた一定の条件を満たす建築物(木造建築物以外の堅牢な建築物、居住を目的とした建築物は、L1津波の想定浸水深以上に居室の一部を設けた建築物)を推奨し、誘導することで津波と共存したまちづくりを図る

**都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

- ・都市機能誘導区域内にあるスーパーマーケット跡地(一部市有地)を活用し、図書館等複合施設と隣接する公園を一体的に整備することで、「拠点」の形成を図る。
- ・図書館等複合施設を整備することにより生涯にわたって学び続けることのできる拠点の創出や文化芸術活動の推進を図る。
- ・図書館と併せて地域交流センター、公園を整備し、イベントを開催するなど地域コミュニティの活性化を図る拠点を創出する。

**都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等**

都市再生土地区画整理事業や都市・地域交通戦略事業の特例を受ける場合は当該事業の概要、位置づけを記載。

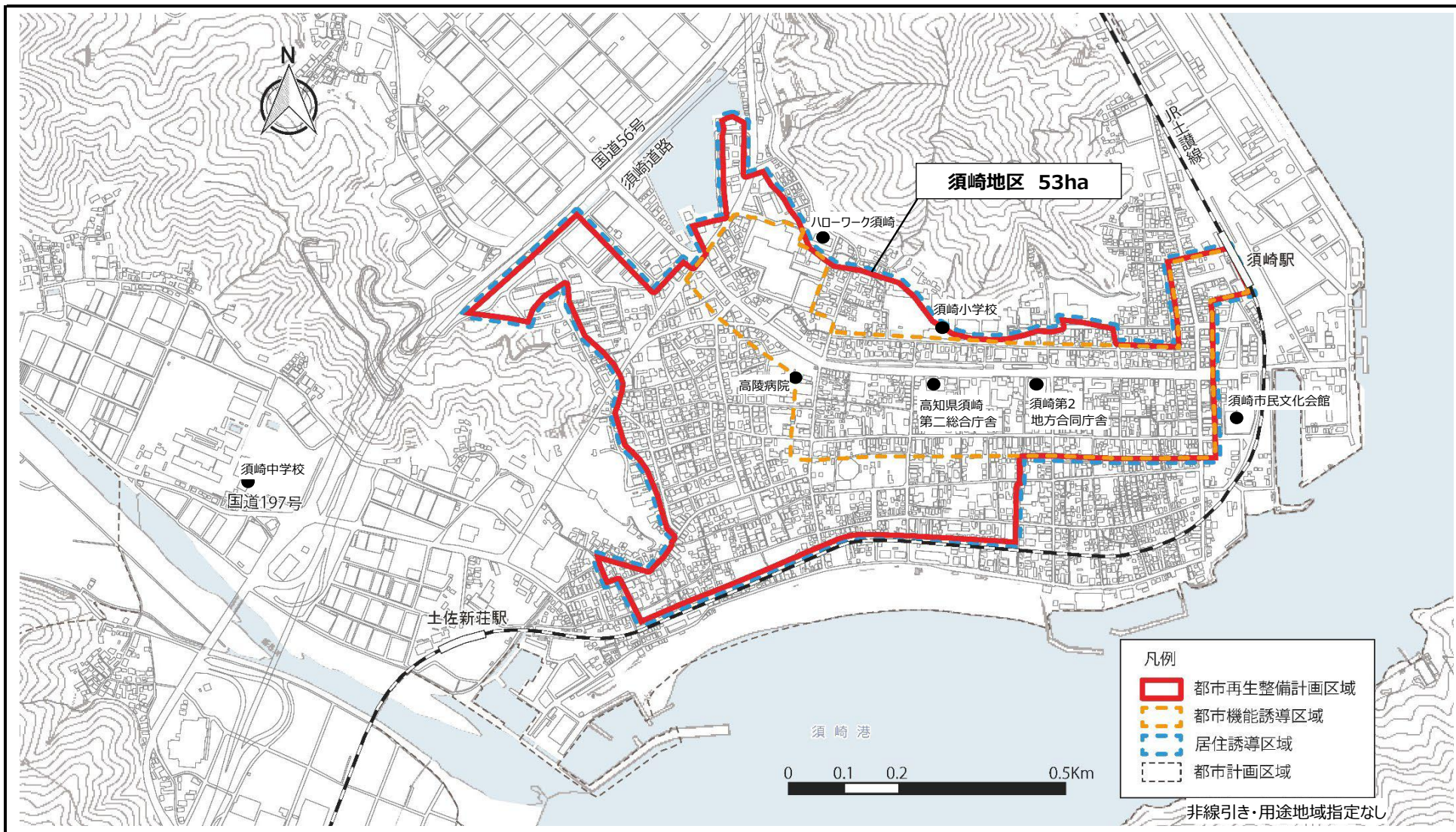
**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
図書館施設利用者数	人/年	須崎市立図書館の図書個人貸し出し利用者数	図書館の整備により、新たな生涯学習活動の拠点としての機能・魅力向上を表す指標となる。	9,190	H30	30,000	R7
多目的ホールの利用件数	件/年	須崎駅周辺の多目的ホール(市民文化会館大会議室・地域交流センター)の利用件数	多目的ホールの整備により、多世代にわたる地域交流の活動機会を増やし、地域コミュニティの活動の充実を図る。	479	R1	760	R7
公園を利用したイベントの回数	回/年	寺尾児童公園を利用したイベントの年間回数	図書館、多目的ホールと併せた公園の整備により、一体となったイベントが開催することが可能となり、地域コミュニティの活動を図る。	5	R1	11	R7

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【多世代が生涯にわたって学び続けることのできる拠点づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化、手狭、蔵書数の少なさが課題となっている須崎市立図書館をスーパー跡地に移設し、新たに整備することにより、これらの課題の解決を図るとともに、新たな拠点を創出する。</li> <li>・蔵書数の増加、読み聞かせなどのイベント開催を行い、図書館施設の利用者の増加を図る。</li> <li>・学びの拠点として、周辺教育機関と連携し、図書館機能を最大限に活かしながら、子供から高齢者までが集う学びの場・居場所を創造する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・須崎市図書館(基幹事業／誘導施設)</li> <li>・複合施設等運用計画(提案事業／地域創造支援事業)</li> </ul>
<p>【多世代にわたる交流の場づくりによる地域コミュニティの活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館に併せて多目的ホールおよび公園を整備し、イベントや多世代が交流できる場をつくり、地域コミュニティ活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流センター(基幹事業／高次都市施設)</li> <li>・寺尾児童公園(基幹事業／公園)</li> <li>・複合施設等運用計画(提案事業／地域創造支援事業)</li> </ul>
<p>その他</p> <p>【住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「須崎市図書館等複合施設整備に関する基本構想」において須崎市図書館等複合施設整備に関する市民ワークショップを3回実施し、図書館等複合施設の整備に関する方針やコンセプト等を協議した。</li> <li>・「須崎市図書館等複合施設整備に関する基本構想」において小中学校、高齢者福祉サービス関連者に対して須崎市図書館等複合施設整備に関するヒアリングを行い、多世代が使用できるような施設整備の方針の参考とした。</li> <li>・「須崎市図書館等複合施設整備に関する基本構想」において須崎市図書館等複合施設検討サロンを実施し、事業推進の説明・整備方針やコンセプトなどの協議等を行ってきた。</li> </ul> <p>【官民連携事業】</p> <p>※都市再生整備計画区域内で、道路占有特例、河川敷地占有、歩行者経路協定、都市利便増進協定を活用する場合には記載する。</p>	



<p>須崎地区(高知県須崎市)</p>	<p>面積 53 ha</p>	<p>区域 原町1丁目、原町2丁目、新町1丁目、新町2丁目、鍛冶町、青木町、東古市町、西古市町、南古市町、横町、栄町、幸町、中町1丁目、中町2丁目、西町1丁目、泉町、池ノ内、東糺町、西糺町</p>
---------------------	-----------------	--





須崎地区(高知県須崎市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 都市機能誘導による交流や新たな価値を創造する拠点づくり	代表的な指標	図書館施設利用者数 (人/年)	9,190 (H30年度)	→	30,000 (R7年度)
	目標1: 多世代が生涯にわたって学び続けることのできる拠点づくり		多目的ホールの利用件数 (件/年)	479 (R1年度)	→	760 (R7年度)
	目標2: 多世代にわたる交流の場づくりによる地域コミュニティの活性化		公園を利用したイベントの回数 (回/年)	5 (R1年度)	→	11 (R7年度)

